



まとめの3学期

大雪の影響が少なからず残る年明けでしたが、1月6日(水)から多くの生徒達が元気に登校し、令和2年度墨坂中学校の3学期がスタートしました。

さて、3年生は年末より受検が始まり、進路実現に向けて正念場を迎えます。体調管理に気をつけ、自分のもてる力を精一杯発揮できるように、学校でも支援をして参りたいと思います。また、2年生は、本校の大きな特徴である2月の立志式に向けての準備を、1年生は、令和3年度の新入生に向けて2月に行われる中学校説明会の準備を進めています。

3学期は、それぞれの生徒にとってまとめの時期であると同時に、4月からの生活に向けての準備期間でもあります。3年生から2年生にバトンを引き継いだ新生徒会は、墨中の顔となる決意を胸に、1月の生徒会月目標を「前途洋々」に決めました。コロナ禍にあっても、生徒たちは明るい未来を信じて、頑張る気持ちを前面に出してくれています。嬉しいことです。

学校では、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつも、生徒にとって実り多い3学期になるよう、一日一日を大切に、職員一同より一層の努力をしております。よりよい墨坂中学校が創造できますよう、今学期もご家庭のご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

3学期始業式 『 僕の後ろに道はできる 』

1月6日(水)にテレビ放送にて、三学期始業式が行われました。各学年の3人の代表生徒からは、それぞれの3学期の抱負が発表されました。1年生代表生徒からは「授業の取り組みと習っているスポーツ」2年生代表生徒からは「学習、部活動、生徒会役員」3年生代表生徒からは「受検に向けてと最後の思い出作り」についての発表がありました。



【校長先生のお話】(テレビ放送にて)

新しい年を迎えましたので新年の挨拶をしたいと思います。

「あけましておめでとうございます」

雪が積もり正月らしい正月となりました。皆さんはどんなお正月でしたか。短い期間でしたが、きっと楽しい思い出ができたことと思います。私は皆さんがケガや事故もなく元気で登校してくれたことを本当にうれしく思います。本年も墨坂中学校の生徒の皆さんと先生方、そしてそれぞれのご家族の皆さんが健康ですばらしい一年になることを祈っています。

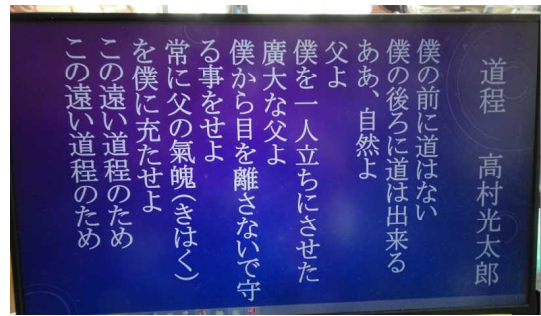
さて、今日から3学期が始まります。学期は48日しかありません。とても短い学期です。しかし、3学期は、とても大切な学期です。なぜでしょう？

1つ目は1年間の学習や生活のまとめの学期だからです。2つ目は卒業・進級につながる学期だからです。3つ目は来年度に向けて準備の学期だからです。

先ほど、各学年の3名の皆さんが代表で3学期や今年に向けての決意を述べてくれました。自分の目標について発表してくれました。また、聞いていた皆さんもきっと自分と重ねて真剣に聞いてくれたことと思います。～中略～皆さんも、2021年、令和3年の年頭にあたり、それぞれ新年の誓いを立てたことでしょう。

さて、今年の始まりということで、あなたたちに味わって欲しい大変有名な詩を紹介します。

高村光太郎の「道程」という詩です。皆さんも一度は聞いたことがあると思います。遙かなる希望に満ちた未来に向けて勇気がわいてくる、颯爽（さっそう）とした気持ちになる詩です。1914年（大正3年）に発表されたときは102行もの長い詩でしたが、次の9行にまとめられているものが、よく目にするものです。この詩の中で特に一緒に味わいたいところは、1、2行目の「僕の前に道はない」「僕の後ろに道は出来る」という一節です。その一節に関わることを紹介します。今から4年前2016年、プロ野球で日本ハムファイターズが日本一になったときのことです。



日本ハム栗山英樹監督が、この年、日本ハムの日本一に投打の二刀流で貢献し、ここ2年は肘のケガと手術の影響でケガと相談しながらの出場ですが、世界一のメジャーリーグでも、かつてない二刀流で活躍しているあの大谷選手への手紙です。大谷翔平選手は、小学校5年生の道徳の教科書にも登場していますので、授業で知った人も多いことと思います。

<栗山監督が大谷に向けた手紙を紹介>

行間から4年間ともに歩んだ大谷選手への愛情が伝わってきます。栗山監督は選手を家族と言います。「野球の神様に愛されてほしい」。その思いは、大谷だけに限ったことではないでしょう。この手紙を通じて、すべての“家族”つまり選手へ、メッセージを送っているようにも思います。

完璧な人間はどこにもいません。いろいろな課題や弱みがあるのは当たり前です。人間って、ともすれば、うまくいかなかったことや失敗したことばかりが思い出され、悲観したり卑屈になったりすることも多いとは思いますが。私もどちらかというとそうした傾向が強いように思います。そういう人に、相田みつをさんの「肥料 あのときのあの苦しきも あのときのあの悲しみも みんな肥料になったんだなあ 自分が自分になるための みつを」という詩を紹介します。大谷選手も今まさにその苦しみの真ん中に居るのではないのでしょうか。しかし、きっと「その苦しみを自分が自分になるための肥料として」乗り越えようとしていることでしょう。また、反対に、皆さん一人ひとりが創り上げてきた素晴らしい出来事も沢山あるはず。それを思い出してみてください。あの時の喜び、感動、達成感、満足感、成就感、それに至ったわけ、過程、道筋を振り返ってみてください。きっと、元氣や勇気がわいてきます。

人間は自分が作ってきた過去の意味を振り返ることで、自分の能力や適性を判断し、未来を見通していくことができます。存在する意味や価値のない人間は一人もいません。ということは、誰にとっても意味の無い時間はないということです。一見無駄に見える時間だって意味があるのです。あらゆる時間のあらゆる営みに意味があるのです。ぜひ、自分の価値を信じる力をもちましょう。

大谷選手のような希な才能をもった人と私たちを同じように語ることは出来ないかもしれませんが、完璧そうに見える大谷選手だって、高校時代は甲子園には出場できませんでした。「誰も歩んだことのない道は無限に広がっています。」と栗山監督は大谷選手に言っています。まさしく、高村光太郎の「道程」の中に出てくるフレーズに通じます。

墨坂中学校の先生方も栗山監督のように、あなた達の頑張りや努力、苦しみや悲しみをしっかりとみていてくれます。あなた達に対して「人生の神様に愛されて欲しい」と思っています。先生方は、あなた達自らが切り開いていく道に対して思いを寄せ、精一杯応援し、支援してくれます。

1、2年生はこれから墨坂中学の表舞台に立っていきます。3年生は進路決定に向かいます。自分の後ろにどんな素晴らしい道が出来ているか、そしてこれからどんな道を創っていくか、切り開いていくか、新しい年を迎えたこの日に、ぜひ考えてみてください。

最後に、これからも皆で力を合わせてこのコロナ禍を生き抜いていく、乗り切っていくという気持ちを心に刻んで行動で表していきましょう。「ワン フォー オール オール フォー ワン」「自分のため 皆のため マスクと消毒をしましょう」です。

【連絡】学校生活について不安なことや心配なことなどありましたら遠慮なく学校（教頭・養護教諭：TEL026-245-0564）までお知らせください。